

| 通番 | 日付 | 場所 | 当日のご意見及びご質問(要約) | 本市の回答(要約) |
|----|----------|----------|--|--|
| 51 | 11/27(金) | 山直市民センター | 再編で子育て世代にとって魅力のある市になるのか。お金の問題が本音ではないか。幼稚園の定員割れ・保育所の待機児童問題の矛盾を解消するためには、給食・3歳児保育等の幼稚園の機能を充実させ、ニーズに対応し、小学校に併設している良さをアピールすることが人口増に転じる施策ではないか。人口が減るので支出を削る、全て民間委託にするのは逆ではないか。 | 若い世代の流出を防ぐ施策については、しっかりと教育・保育環境を作ることです。市立園、民間園に関わらず、等しく同じレベルの教育・保育を提供していただけのもと思っています。今回、地域(3次生活圏)に1園の市立認定こども園を設置する理由として、新しい教育の取組みが必要な所は、先ず市立認定こども園で、内容を研究・強化してまいります。また障害児教育等の課題につきましては、しっかりと市立認定こども園でモデル事業を実施し、その上で民間園へ広げていきたいと考えております。更に市立園の機能としまして、民間園では園児数の確保ができない等の理由により、地域展開ができない所は市立で補ってまいります。市立園と民間園がお互いの良さをもち、地域に広く民間認定こども園を作っていくことが市・教育委員会の立場で、民間園だからできないというものではありません。 また3歳児保育は、段階的に行う予定でしたが、「子ども・子育て支援事業計画」では、現在の10園で3歳児の保育の量は充足しているとなっております。なお来年度の3歳児保育の応募状況は、11月1日時点で250名の定員に対し、188名の応募となっております。また給食の要望があることは、十分認識をしています。ただ天神山幼稚園のように実施できる所、できない所があります。保護者の就労状況に関わらず、全ての岸和田市の子どもたちに、同じ環境で教育・保育を提供するため、幼稚園を整備するのではなく、認定こども園化で再編することを選択した次第です。 |
| 52 | 11/27(金) | 山直市民センター | 城東・山直北地域では将来的に民間園しか選べない。不公平である。牛滝の谷の中に入っているが、3次生活圏は子育て世代の生活の基盤には合っていない。なぜ3次生活圏である6圏域で分けるのか。 | 市内全域に等しく市立園を作るとなると、より小規模化し、集団学習活動をする上で、大きな課題が出てくると考えています。それぞれの考え方で、市立園を良しとするご意見が出てくるのもわかりますが、我々は逆の立場で課題があると認識しています。 また「子ども・子育て支援事業計画」では、3次生活圏を教育・保育の提供区域として、設定しており、それぞれの区域において教育・保育の量・見込み・提供体制の確保を行っています。また再編方針を策定するにあたり、市長の附属機関である「市立幼稚園及び保育所あり方検討委員会」で審議をいただきましたが、3次生活圏で再編を図るべきとの答申をいただいたことから、3次生活圏での再編方針になっているものです。 |
| 53 | 11/27(金) | 山直市民センター | 市立園が民間園に変わることが心配。市立園は残して欲しい。磯之上山直線を渡って通園することが、保護者にとって負担ではないか。 | 現時点において、民間の保育施設は既に27施設(うち小規模保育事業所4)あり、令和3年4月初期の在園児は、市立保育所約1,100名、民間保育施設約2,900名となっております。民間施設は、実績を十分に積み重ねています。市立園の水準を基本にした保育を、民間園にも同じように維持していただき、岸和田市の子ども全体の教育・保育レベルを上げていくことが前提です。守られないことが無いように、市担当部局が定期的な監査にも同行し、チェック機能を果たしてまいります。なお通園については、歩いてすぐの施設に通園できている方もいらっしゃいますが、様々な事情で保育施設を利用されているので、多くの皆さんがそのような環境で送迎をされている訳ではありません。それでもできるだけ利便性を高めるため駐車場の確保等、送迎をし易いようにしてまいります。また小学校との連携については、保育所は幼稚園のように小学校に隣接していません。これまでも保育所の5歳児が小学校入学の際は、幼稚園児と比べ、若干の違い・ハードルはあったと思っています。ましてや、大勢の民間保育施設に通っている子どもたちの連携の差は、市立保育所よりも更にあつたと思っています。今回の再編によって、こういった小学校との連携も、どの施設に通っている子どもたちにも等しく、同じ条件の良質な教育・保育を受けていただくための計画案であることを、ご理解いただきたいと思います。 |
| 54 | 11/27(金) | 山直市民センター | 現在通っている城東幼稚園が無くなり、遠くなるのが困る。施設があるから家を買った。集約されることで人数が増え、目が行き届かなくなるのではと不安。支援の必要な子どもも増えている。城東幼稚園の少人数は魅力である。園の雰囲気・やり方が変わることで、勝手に計画が進んでいること、市長に不満がある。市民は納得していない。人員の確保は考えているのか。 | 先生の確保が最も重要と考えており、民間園に対しては支援金の交付・有給休暇取得に対する補助金・潜在的保育士のための支援補助金の制度を創設しました。市立園の職員に対しても、待遇面の改善を進めているところです。 認定こども園は、保育教諭という職が必要になります。市立施設の正職員に対して、令和3～5年度で資格取得の支援をしていますので、認定こども園になっても働いていただけます。民間園の先生には、大阪府の補助があると聞いていますが、全ての民間園が実施しているかは把握しておりません。 |
| 55 | 11/27(金) | 山直市民センター | 城東幼稚園が再編された後、城東小学校が適正化された場合、地域住民はどこに避難するのか。先の事も考えて、この計画案を出しているのか。 | 小・中学校の再編につきましては、現在、計画案という形で同じく市民説明会をしているところです。仮に計画通りに進んだ場合、山直北小学校地となった場合、城東小学校地・校舎が空いてくることとなります。現在、小学校については地域住民のコミュニティの場・避難所等で活用いただいているので、市・教育委員会が勝手に跡地処理を決めてしまうことは考えておりません。まだ再編について、決まってもいないのに跡地処理の相談はできませんので、地域の意見を聞いて、しっかりと考えていきたいとしか今はお答えできません。しかしながらその一方で、学校地・校舎は市民全体の貴重な財産でもあります。地域全体の利益向上のために、どう活用するのかを考えるのも行政の役割と考えております。地域の意見と行政の考えを照らし合わせて、良い方向を導き出したいと思っています。 |
| 56 | 11/27(金) | 山直市民センター | 天神山幼稚園の給食実施の取組みに問題はあるのか。認定こども園で、0歳児から就学前まで給食を提供すると、学校内の給食施設では無理なのか。 | 天神山幼稚園は小学校と同一施設にあるので、提供に問題はありませぬ。他の幼稚園は小学校と併設はしていますが、同一施設ではないため衛生面・施設面で問題があります。また岸城幼稚園等の独立園もあります。更には3歳児の幼児教育をしている園では、4・5歳児とは同じ物を提供することができず、様々な工夫が必要になります。それを小学校の施設で作ることはできません。幼稚園の子どもたちに等しく、給食の機会を教育として展開する上で課題があるということです。何とか保護者の方のニーズに応えることができないか、教育委員会で検討中です。 また3号認定(0・1・2歳)の保育が必要な子どもについては自園調理が必要となります。必ず厨房施設を設置するので、認定こども園の場合には、0～5歳全てのお子様に対し、給食は提供します。 |

| 通番 | 日付 | 場所 | 当日のご意見及びご質問(要約) | 本市の回答(要約) |
|----|----------|----------|---|---|
| 57 | 11/27(金) | 山直市民センター | 市立保育所・幼稚園を全て無くすのではなく残して欲しい。子どもの数の少ない山滝中学校地で作って、本当に子どもが集まるのか。山直北に作るべきではないか。住民の要求に応じた計画を立てて欲しい。 | 山滝小・中学校の再編に併せて、山滝中学校の敷地内に市立認定こども園を設置するという計画案ですが、今後小・中学校の再編の市民説明会等でご意見をいただきながら、地元の意見を尊重し、対応したいと考えています。 また市立認定こども園が果たす機能・役割といたしまして、山滝中学校地での保・幼・小・中という一体型の連携を考えています。人口の少ない場所にも、しっかりとした幼児教育・保育の場を確保しなければなりません。しかし山滝地区のように子どもの絶対数が少ない場所には、民間園の進出は見込めないのも事実です。そういった中、空白地域を作らないというのが市立施設の機能・役割であると考えています。 |
| 58 | 11/27(金) | 山直市民センター | 施設集約は、財政難からの人減らしではないか。 | 幼稚園教諭、保育所職員は、本人が希望する限り、定年まで勤めていただきます。今までの小中・幼保再編の説明会で、教育・保育について課題があるという観点から、再編が必要であると申し上げてきました。お金のためと考える市民の方が居られるのは、それぞれの考え方なので仕方がないことだと思いますが、我々は子どもたちに、より良い教育・保育を提供していくための再編であるということをお伝えしてまいります。今回の再編によって、生まれる効果額もありますが、市長は市議会において、優先的に子育て・教育に再投資とすると表明しております。市・教育委員会では、引き続き教育・保育の充実に向けて取り組んでまいります。 |
| 59 | 11/27(金) | 山直市民センター | 住んでいる地域には民間園に通っている子どもが多い。マンモス園、バス通園をしているような園を評価できない。教育も大切だが、出産前のお母さんのための施策も充実して欲しい。 | ご意見として承ります。 |